山形大学研修会「第１３回ＦＤ合宿セミナー」

【第１チーム】ＦＤ合宿セミナープログラム及び記録

プログラム抜粋

ＦＤ合宿セミナーに当たって

学士課程教育の充実のためには，第一義的には各学部がその責任を負っていますが，学部の専門を超えた幅広い学びのあり方や授業の改善，学生の主体的な学習支援などは，学部の垣根を超えて全学的に取り組まなければならない課題です。また，生き残りをかけた大学改革に際し，授業の充実は最も重要な課題の一つでしょう。

今回のセミナーの第一の目的は，「個々の教員が，大学を支えることの意義と位置付け，教育の基本的構成要素，各授業科目の存在意義，授業設計，成績評価法・授業方法などについて，あたらめて主体的に検討し，再構築していただくこと」です。この目的を達成するために，まず，参加者の皆様に御担当いただく新しい授業科目について考えていただきます。そして，そのシラバスをグループで協力して作成していただきます。こうした一連の作業が有効な方法であることは，既に広く知られています。

セミナーは，大学への参画意識を高めるための２つのプログラムと，シラバスを作成するための２つのプログラムから構成されています。各プログラムは，グループ作業を中心に組まれており，参加者は学生が運営する学生主体型授業を体験することになります。

また，「大学間・学部間の人的交流の拡大・充実を図ること」が第二の目的です。他大学・他部局の参加者と活発な議論を交わしながらプログラムを遂行し，セミナーが終了した後には，参加者が大学の教育分野全般の発展に，より一層積極的に貢献されることを期待しています。

このセミナーは「構成員こそが大学の財産」という精神で臨んでいます。

更に，このセミナーは東日本地域の「ＦＤネットワーク“つばさ”」を始めとして，全国の大学に開かれています。本セミナーが，相互研鑽の精神に則り，参加された大学・短大・高専の発展に寄与されんことを願っております。

第１チーム参加者と山形大学　結城学長（前列中央）

第13回　山形大学ＦＤ合宿セミナー日程表

期　間　　第１チーム：平成25年8月26日（月）～27日（火）

○第１日目

時　　刻	項　　目	担　　当
12:45	山形大学小白川キャンパス　集合・受付	
13:00	送迎バス　大学出発	
14:00	会場到着　記念撮影　セミナー開会 開会のあいさつ	司会： ＤＲ－Ａ
14:30	オリエンテーション	ＤＲ－Ａ
14:40	アイスブレーキング	ＤＲ－Ａ
15:00～16:30	プログラムⅠ「大学へのニーズと課題」	ＤＲ－Ａ
16:30～16:40	休憩（10分間）	
16:40～18:10	プログラムⅡ「理想の大学をつくる」	ＤＲ－Ａ
18:10～19:00	夕食	
19:00～20:00	入浴・休憩	
20:00～22:00	懇親会	ＤＲ－Ｂ
22:00	中締め	
23:00	就寝	

○第２日目

時　　刻	項　　目	担　　当
7:30～	朝食・部屋の清掃・部屋退出	
8:30～10:00	プログラムⅢ 「科目設計１：授業名と目標，内容の作成」	ＤＲ－Ｂ
10:00～10:10	休憩（10分間）	
10:10～11:40	プログラムⅣ「科目設計２：シラバスの完成」	ＤＲ－Ｂ
11:40～	修了式	ＤＲ－Ｂ
12:20～	昼食	
14:30	送迎バス　蔵王山寮出発	
16:00頃	山形駅経由　大学到着　解散	

【留意事項】

○セミナー期間中の途中からの参加及び離脱は禁止とします。

○セミナー期間中の個人の呼称は，「○○さん」とします。

○食事はセルフサービスとなります。食事時間になりましたら，共同で配膳作業等を行ってください。

○起床と同時に，寝具を使用前と同様に整理・整頓し，使用した宿泊室・廊下等を清掃してください。

○退出の際は，使用したシーツ・枕カバーをたたんで，指定する場所に返却してください。

○スキーヤーズベッドは各部屋２段になっておりますが、清掃と危険防止の観点から２階部分は使用しないでください。

○ベット上での飲食はご遠慮ください。

DR-A	山形大学 小田　隆治
DR-B	山形大学 杉原　真晃

A班

所属	氏名	性別
羽陽学園短期大学	松田　知明	男
了徳寺大学	松本　揚	男
青森公立大学	野呂　拓生	男
関東学院大学	山之井　麻衣	女
山形大学	山下　泰弘	男
山形大学	塩見　大輔	男

B班

所属	氏名	性別
国際武道大学	大田　さくら	女
石巻専修大学	関口　駿輔	男
大阪成蹊大学	植田　真司	男
山形大学	星野　友紀	男
山形大学	樋渡　美千代	女
山形大学	松坂　暢浩	男

C班

所属	氏名	性別
ものつくり大学	伊藤　大輔	男
明海大学	東　香織	女
ヤマザキ学園大学	岡崎　登志夫	男
山形大学	多田隈　理一郎	男
山形大学	橋爪　孝夫	男
山形大学	安田　宗樹	男

D班

所属	氏名	性別
八戸学院短期大学	久保　宣子	女
桜の聖母短期大学	千葉　あや	女
青森大学	角田 均	男
山形大学	粟野　武文	男
山形大学	高窪　祐弥	男
山形大学	西山　宏昭	男

E班

所属	氏名	性別
東日本国際大学	関沢　和泉	男
ものつくり大学	高岡　道久	男
日本大学	武樋　孝幸	男
山形大学	時任　隼平	男
山形大学	大園　真子	女
山形大学	佐竹　寛史	男

F班

所属	氏名	性別
鶴岡工業高等専門学校	伊藤　滋啓	男
明海大学	吉田　敦	男
関東学院大学	飯尾　美沙	女
山形大学	吉村　俊平	男
山形大学	川村　一義	男
山形大学	成田　淳	男

オリエンテーション

1　ＦＤの必要性

①　大学の社会的教育責務の明確化
②　大学教育を教員中心から学生中心へ移行することの教員の意識改革
③　大学生の質の変化への対応

2　合宿セミナーの目的

①　教員個人が大学を支えることの位置付け
②　教育の基本的構成要素，大学における各科目の存在意義，授業設計，成績評価法などをあらためて整理する
③　教員相互の交流

3　セミナー形態

体験型のセミナーで，セミナー自体がグループ学習形式であり，参加者は，学生が運営する学生主体型授業を体験することになる。

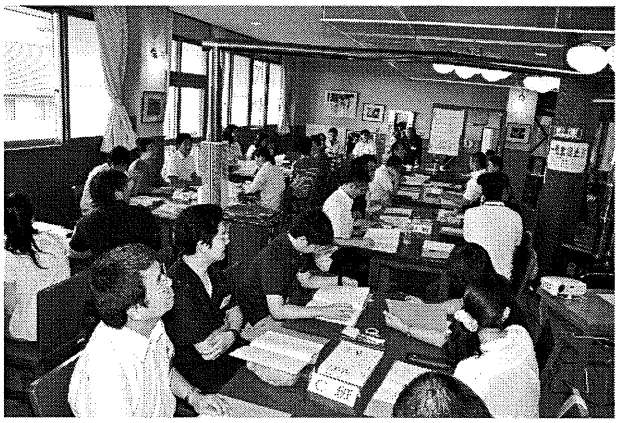
①　参加者によるセミナー全体の運営
②　セミナーのグループ構成：６班
　　班の構成員の年齢は幅広くする
③　各プログラムに，毎回，総合司会者と記録係を置く（各班の持ち回り）
④　各班に，毎回，司会者と記録係，発表者を置く（持ち回り）
⑤　全体と各班の記録係は，各プログラム終了後に記録を提出（この記録は，コピーした後，速やかに全班に配付）
⑥　参加者による相互評価：各回のプログラムが終了した時点で，各参加者が各班の発表と質疑応答に対し，５段階で評価を与える（この評価は，毎回回収し，整理した後，速やかに掲示する）
⑦　合宿セミナーに関するポストアンケートを実施

4　各プログラムの基本的形態

○各プログラムの講師による作業内容の説明	10 分
○グループ作業	40 分
○発表　各グループ	24 分
（各グループの発表時間４分×６班）	
○全体討論	16 分

全体で　90 分

開会のあいさつ　結城学長

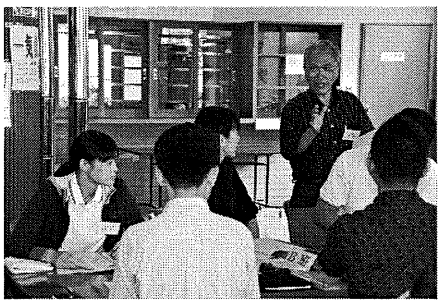


オリエンテーションの様子

プログラムⅠ「大学へのニーズと課題」

○各班同じテーマ　プログラムⅡも念頭に置く。
現実的，具体的に解析する。

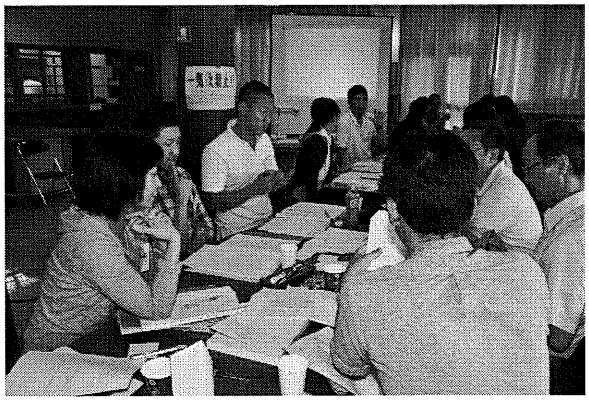
1　大学には何が求められているか？
　・社会は大学に何を求めているか？
　・学生のニーズ
2　大学の置かれている状況分析
　・そこには，どのような課題（問題）があるか？
　・長所（望まれていること）
　・短所（望まれていないこと）
　・その生じさせている理由・原因は何か？
3　現実的な制約・問題点，改革の必要性など

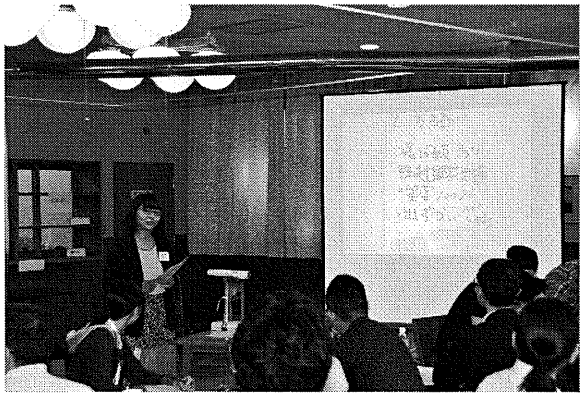

山形大学　小田隆治　講義風景

プログラムⅡ「理想の大学をつくる」

プログラムⅠの問題点などを踏まえた上で，理想の大学をつくるためには，これからどのようなことを考え，実行していかなければならないか，具体的に提案する。大学の理念・目標を実現するための具体的行動目標，大学の「個性」と「売り」をどのようにするか。すべての班が同じテーマであるが，個性あふれる現実的企画を期待する。
大学の「売り」を作る企画が求められている。

1　大学の理念・目標
　・自覚的に個性的な校風を作り出していく
　・個性的な大学像（理念・目標，キャッチフレーズ）
2　方略（考えられるいくつかの方法，実現の可能性）
3　実行計画（主な活動，資源，時期，担当，責任，具体的企画書など）
　・その宣伝・普及の方法（４年計画案）
　・組織論（学部，学生の入口と出口（入試制度と就職），学長と副学長制，委員会など）
4　評価（測定方法，学生，教員，ステークホルダー）
　・目標が達成できたかどうかを検証する


グループワークの様子①


発表の様子

プログラムⅢ「科目設計１：授業名と目標，内容の作成」

ここでの課題

シラバス作成作業の第１段階として，各グループごとの課題に対応した授業名と学習目標の設定を行う。

プログラムⅢ，Ⅳの各グループの課題

Ａ班：大学の個性を発揮する授業
Ｂ班：主体的に考える力を育成する授業
Ｃ班：地域性と関連する授業：大学と地域の連携
Ｄ班：国際性を培う授業
Ｅ班：21 世紀の諸課題に対応する授業
Ｆ班：職業意識と労働意欲を培う授業

学習方法と道筋（戦略，学習方略）を明示する。具体的には，学習者が到達目標に達するために必要な学習方法の，種類と順序を示す。

作業１　授業名の決定：○○○○○○○○○○（仮称）←内容確定後，最後に決定？

作業２　学習目標の設定

1　踏まえておくべきことがら：

(1)教員中心ではなく，学生による学習を中心に考える（教員の果たすべき役割の再検討）
(2)大学に対する社会的ニーズ
(3)大学の全体的な教育目標

註：(1)について

大学の役割
- 講義の提供　→　学習方法と教育方法のデザイナー
- 学生から独立　→　教員と学生を一つのチームと考える
- 学力差を明確にする　→　すべての学生の能力と才能を引き出す

成功へ向けて
- 伝授する資源の重視　→　学習と学生の成功の産物を重視
- 資源の量と質の重視　→　産物の量と質を重視
- 入学生の質の重視　→　卒業生の質を重視
- カリキュラムの発展と拡大　→　学習技法の発展と拡大
- 大学の質・内容の質　→　学生の学習の質

使命
- 知識の提供・伝授　→　学習を生み出し，知識の発見と形成へ
- コース・プログラムの提供　→　強力な学習環境の提供
- 教育の質の改善　→　学習の質の改善
- 多様な学生への対応　→　多様な学生を卒業させる

教育
- 教員中心・知識伝授　→　学生中心・知識発見
- 教育の質　→　学習の質，学習効果・効率
- 指導者としての教員　→　学生の才能・能力を引き出す助言者
- 個人的・受動的学習　→　共同的・行動的・能動的学習

2　学習目標の記述

各科目の学習目標を表現することの必要性とその表現方法を学ぶ。学習の効果は，教育の受け手（学習の主体）である学生の変容で評価されるべきである。そのために，①授業の目標と②到達目標を定める。

註：授業の目標を作成する際の注意点

原則

(1) 学習者を主語として書く

(2) 学習の結果，いかなることができるようになるかを明示する

記述内容

(1) 知識・技能の学習がなぜ重要か。それによって学生の要求がどのように満たされるかを明示する

(2) 複雑・総括的な概念を持つ動詞を用いる

知る，認識する，理解する，感ずる，判断する，評価する，考察する，位置付ける，実施する，適用する，示す，創造する，身に付ける，等々

※単純な行動を示す動詞は用いない（述べる，列挙する，選ぶ，記載する等々）

(3) 必要な目標分類（認知・態度・技能）を総括的に含める

註：到達目標を作成する際の注意点

授業の目標を達成するためにどのようなことができるとよいか，具体的に明示する。

(1) 学習者を主語として書く

(2) 動詞を含むこと

(3) 「理解する」のような概念的言葉ではなく，観察可能な行動を具体的に表す

(4) 授業の目標と関連していること

(5) 到達レベルを書く

(6) 認知，技能，態度を分けて書く

○知識（認知領域）：知識を得て理解し，一定の能力を獲得する

述べる，説明する，分類する，比較する，解釈する，推論する，一般化する，適用する，結論する，批判する，評価する，等々の動詞

○技能（精神運動領域）：知識・能力を活かして意識的・具体的に行動する

感ずる，始める，模倣する，工夫する，行う，創造する，触れる，調べる，準備する，測定する，等々の動詞

○態度・習慣（情意領域）：獲得した知識・能力を，情報として相互に提供・交換し合う

行う，コミュニケートする，協調する，示す，表現する，系統立てる，参加する，応える，等々の動詞

作業３　**原則として，週に１回９０分の授業を１５回実施するものとして，授業の内容を考えてみる。その際，授業の順序と各回の内容，学習法，利用する媒体，資源などについて明示する。内容によっては，授業の目標，到達目標，さらには科目名についても変更が必要になるかもしれない。**

註：学習方法の種類

(1) 受動的学習法：講義など

(2) 能動的学習法：① グループ討議（演習，セミナー，ディベーティングなど）

② 実験・実習

③ 自習（読書，個人研究，コンピュータ活用学習など）

註：学習のための資源

(1) 人的な面で：

(2) 物的な面で：① 場所

② 媒体（スライド，ＯＨＰ，標本，ＶＴＲなど）

(3) 予算

プログラムⅣ「科目設計２：シラバスの完成」

ここでの課題

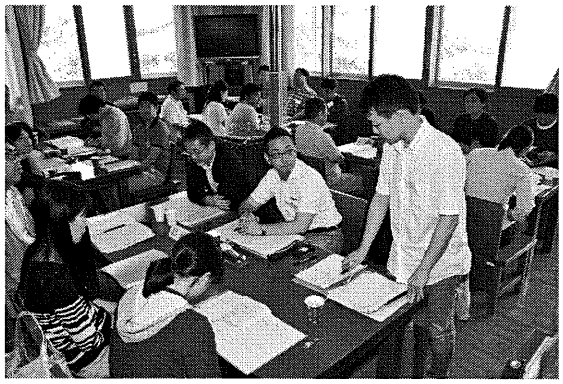
プログラムⅢで作成した授業について，シラバスを完成する。

○成績評価

その位置付け

(1) 教育評価は，学生，教員，カリキュラム（目標，学習方法の立案（方略），評価）の三者が対象

(2) 成績評価は，その中の一つ



グループワークの様子②

留意点

(1) どの行動領域を評価するか

① 知識（認知領域）

② 技能（精神運動領域）

③ 態度・習慣（情意領域）

(2) いつ評価するか

① 学習前（プレテスト）

② 学習中（中間テスト）

③ 学習終了後（ポストテスト）

④ フォローアップ・テスト

(3) 評価の目的

① 形成的評価：学生が理解している点，理解が不足している点を発見し，学習法，教授法へのフィードバックが目的。最終評価の参考にしない

② 総合評価：到達目標に対する学生の到達度を計測する

(4) いかに評価するか，複数の評価項目のウェイト

① 論述試験

② 口頭試験

③ 客観試験

④ 実地試験

⑤ 観察試験

⑥ 論文（レポート）

評価の持つべき性格

(1) 妥当性：計測しようと意図する項目を計測できる方法か？

(2) 信頼性：計測結果の再現性は良いか？

(3) 客観性：計測者（教員）が替わっても，同じ結果が得られるか？

(4) 効率性：経済的にも時間的にも実用的か？

(5) 特異性：なぜ，そういう解答がなされたか分かるか？

プログラムⅠ記録「大学へのニーズと課題」

花火班（A班）

司会者：野呂
記録者：野呂
発表者：松田

1．何が求められているか
- 実践力　応用力
- コミュニケーション能力（英語力）

2．状況分析

- 専門学校化 ←→ 他方 ・専門性が高まると
  - 専門学校化 → 将来に活かせる学び 資格取得
  - 専門性が高まると → 学生が社会応用性を見出しづらくなる

3．制約と改革
- 実践に特化すると応用力がなくなる（考える力がなくなる）
- 大学が応用力についてアピールをしていくべき

佐藤錦班（B班）

司会者：植田
記録者：大田
発表者：松坂

1. 大学には何が求められているのか？
   - 主体性（支持を待たずに行動）
   - コミュニケーションスキル
   - 就活のための「○○」
   - 内向性→自信を持たせる
   - 質の高い学問にふれること 学びの本質
   - 親の役割や期待 …顔（4年間での成長）

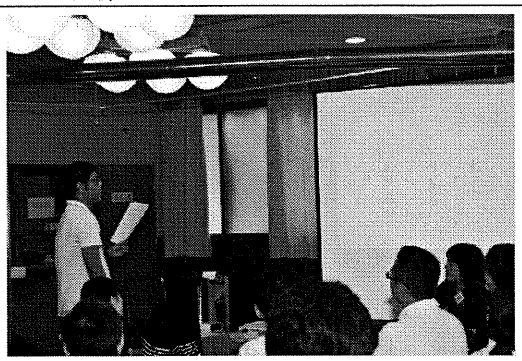
⇩

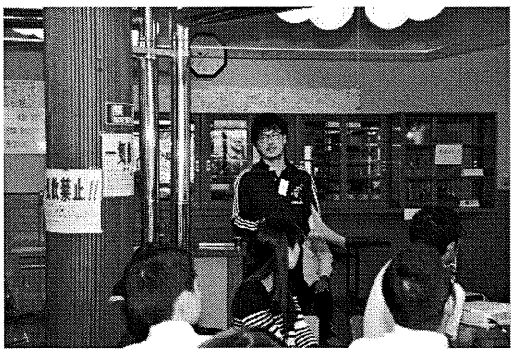
進学率のアップ（社会変化）で学力低下などの問題
☆「気付かせる教え方」で能力を上げる

2. 大学の置かれている状況分析
   - 長所
     社会人としての自己主張
     顔つきを変える
   - 短所
     就職に直結していないのでは…？

→ 原因は？
- 大学の「アカデミック」が
  が必要とされていないのでは…？

3. 改革など…
   - 主体性を高めるためにはゼミなどで専門性をつきつめる
   - 授業のプロセス
   - 目標を持たせる





C．＆C．（C班）

司会者：多田隈
記録者：橋爪
発表者：伊藤

15：10　係決め。活動の流れを昨年参加者の司会より解説

15：13　「大学には何が求められているか」を司会より順にコメント（反時計回り）

① 地方国立大学的「地域連携貢献」
② ものつくり大学的「人材（技術者）育成」

※この時点で15：30だったので上の２点について状況分析を開始

課題…学生ニーズも含めて強力に「就職」を志向している
長所…社会との接続を重視した研究・教育・技術者育成
短所…社会や学生を意識しない勝手な研究・教育
理由・原因…「大学」に価しない小手先の技術教育
→「社会的役割」の意識が必要

現実的な制約、問題点

豊かな教養と連動した社会の一員を育てる
研究、教育の体制が整備されていない

改革の必要性

大学は社会の中での役割を意識し、
教育、研究の説明責任を果たす必要がある
相方向的な窓口の整備も考えたい

イニシャルD班（D班）

司会者：粟野
記録者：角田
発表者：西山

・社会のニーズ

人間性 ・常識 ・論理性 ・チャレンジ	自立 ・飯が食える
即戦力 ・社会での仕事能力	専門性 ・技術、知識 ・コミュニケーション ・グローバル

・学生のニーズ

専門 ・資格、免許 ・グローバル	自己実現 （短期） ・成長 ・ステップアップ ・コミュニティ ・友達
就職 ・即戦力 ・ブランド	（長期） ・生涯学習 ・知的好奇心

・状況分析、問題点
「ニーズ」に対するずれ、ギャップ

社　会
人間性の教育は高校までに？
技術開発、研究の時間スケールの違い

学　生
資格、免許の教育と研究の違い

大学のヒト、モノ、カネ
予算配分、ブランド力
教える側の人材不足
少子化への対応

↓
社会と連携　汲み上げ

いなかっぺ班（E班）

司会者：時任
記録者：大園
発表者：高岡

1．大学には何が求められているか

1-1．社会は大学に何を求めているか？

親のニーズ
もある！
が 学生は反応薄

- 就業力の育成、確実な仕事を見つけられる能力
- コミュニケーション能力、人間性
- リーダーになれる人材の育成、自立心を持った人材
- 専門知識の共有、多様な知識、視野の多角性
- 資格の取得

1-2．学生のニーズ

強
- 自分の自由な時間
- 資格
- 専門的な知識
- 出会い
- 多くの機会

長 大学の体制はある

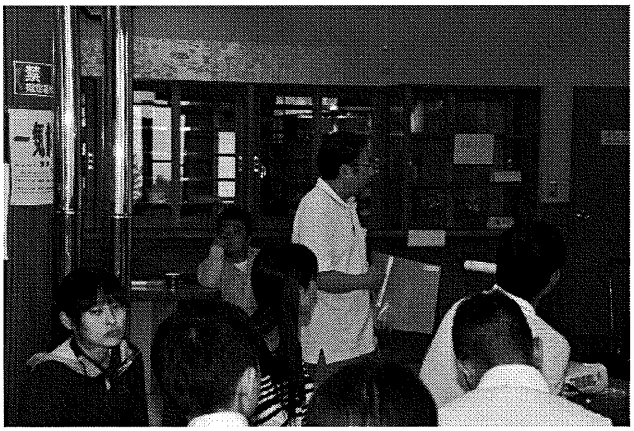
2．状況

- 資格 ― 学生のニーズには対応しきれていない！？
  - やる気がない（親は望むが）
  - 意識が低い ⟶ 学生がついていけない

社会 判断材料にはなる
人間性も含め

（でも社会は必要とする国家資格）

3．制約 ― 基礎知識を積んでからの話（大学以前）
改善 ― 授業改善、興味、将来像を早くイメージ化させる
就活との関連づけ



Ｅ４Ｗ２（Ｆ班）	司会者：成田 記録者：川村 発表者：川村

＜成田＞
・国家試験の合格率を上げるという要求
・試験問題に準拠した問題作成
・医師に対するニーズの地域と乖離

＜飯尾＞
・看護学の立場からも、地域のニーズとの乖離

＜吉田＞
・被災地でのニーズはより高い
・いわゆる入試の方法で学生の
　能力に差が出ているのは
　残念ながら事実

＜吉村＞
・社会が大学に何かを求めること自体
　どうなのか？
・とことん学問、という姿勢がまず必要で
　そうした姿勢で学べば自然と社会に認め
　られる学生が育つのではないか。

＜川村＞
・公務員試験の二次試験に
　グループディスカッションがあるのは
　わかるが、どうして対策セミナーを
　別にやらなければならないのか。
　　→　普段は一体何をしているのか？

＜伊藤＞
・どの企業も「まずは即戦力を」と
・常識的な礼儀作法＋α

◇グループ作業記録　プログラムⅠ　全体討議記録

◎専門性がみえづらい分野（資格がなく一般に就職するような分野）への学生へのアプローチは？

（B 班）「一般教養」は資格取得に結びつきづらいが、社会に出ると役立つ基礎力（共通した力）を身につけられるので大事。
（A 班）例えば数学は、学びが進むと社会応用性が見えづらくなる。
資格取得では、考える力が身につきにくい。

◎将来資格が取れる学部でも、学ばない学生がいるのか

・ある程度の学生の自立は必要
・大学のブランドもあるので、どこまで大学が拾い上げるのかは個別大半の判断か

◎今までの議論をうけて
・そもそも、大学教育が職業に直結する必要があるのか
・すぐに仕事に直結な学びから少し離れるべきではないか

プログラムⅡ記録「理想の大学をつくる」

花火班（A班）

司会者：山下
記録者：山之井
発表者：山下

1. 校風 or キャッチフレーズについて考えてみる（Keywords）
独創性　問題解決力　グローバル　イノベーティブ
資格は矛盾するか？→ specialist であり世を引っ張っていく力だ
① 「愛される大学が大切」→ 地域、学生、卒業生
ルーツをつくる　種をまいて水を与えるまで大学が行う意義がある
戻ってきたくなる大学

理念
目標

② 「イノベーティブな人材を造る大学」

2. 多様な
新しい
経験をする
経験を共有する

3. 全員が仲間なんだと感じる　ステップアップしていく　苦しみを共有していく
→ 階段をふんでつみ上げていく　物つくりをする
コンペをして優良であれば資金提供していく　等
自信がつく

卒業生に入ってもらったりしてもらう

4. 実行し修正していくか　達成できたか　を評価していくことが必要では？（PDCA サイクルを）
（一年次からステークホルダーを与えていく）
自己評価、外部評価からはかっていく

佐藤錦班（B班）

司会者：星野
記録者：関口
発表者：植田

『地域学部』

1. 理念・目標

カルチャーセンター？

○具体的なものを提示

・高齢者も交ざる（定年退職後のいきがい）

||

目的意識が高い

パイの大きさ

社会人の学びなおし

義務感（やらされ感）ではない

・ 理論と実務の接続の機能

・ 幸せの実現（自分とみんなを） ←―― 変身願望

||　　↑

名　　モチベーションを支える

地域コミュニケーションの核に（短大の現状）

『理念』

◎地域に根ざした生涯教育

全ての世代（高齢者.　就職後）

知 ・ 体 ・ 徳 の三位一体

こころざし

2. 方略

ＯＢ・ＯＧの活用― 校歌を肩を組んで歌える環境

3. 実行計画

・入試は？　地域からの推薦制度 ――→ 出口戦略にもつながる

企業・商店・なんでも

ＯＢ・ＯＧ

・就職先としての地域の為に― 地域の幸せ

地域による投票（学長選考）

4. 地域が元気になったか？

（評価方法）

C．&C．班（C班）

司会者：岡﨑
記録者：東
発表者：安田

1. 大学の理念、目標
（国立…国のために
私立…建学の精神）

☆ビッグピクチャーを持った学生を育成する

30年後、40年後のビジョンをもつ
目先のことだけではなく

・独立した主権者としての考えを持つ個人
・バイテリティのある学生・タフな学生
・自分の人生を主体的に描いていけるようなタフな学生

更に世界につながっていることが重要

2. 方略
・地域のニーズに合わせた大学を作る　＝　地域連携　共創
・大学としてビッグピクチャーを作る、教員はそこに向かって進む
・地域に根ざした大学、地域の人と共につくる
・技術と技能を連動させた大学　　頭と手　両方が必要
広い視野　と　専門性　を両方　　自分の立ち位置を理解する
(歴史的な要素を含む)　　わきまえる
ポジショニングがしっかりした大学を作る

3. 実行計画
宣伝普及：良い人材を輩出すること
宣伝 → 学生を売りにする．　誰に売るのか
（企業・社会
保護者）
・国際的な学会での発表
・ＦＢ等双方向情報発信（地域の人と一緒に）
・インターンシップで在学中に学生を外に出していく
企業とのつながりを持つ中で、企業のニーズをくみとっていく

4. 評価
・双方向情報交換
・学生か就職先に入社後に活躍しているかどうかを見る
フィードバックをもらう（企業・保護者等から）

イニシャルＤ班（Ｄ班）

司会者：久保
記録者：高窪
発表者：千葉

1. 大学の理念・目標
「就職先は地球です」

2. 方略
「留学１００％」「飛び級制度」

3. 実行計画
「世界規模サテライト交流」　「海外展開企業との提携」　「Big&little 制度」

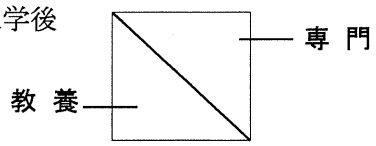
4. 評価
「出資企業の提携数・出資金・継続率」　「卒業生地球儀」

いなかっぺ班（Ｅ班）

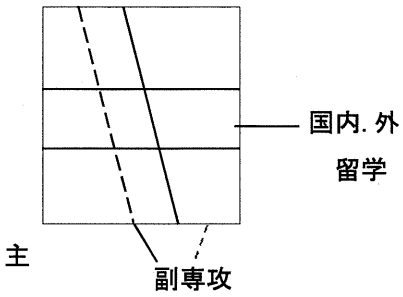
司会者：佐竹
記録者：関沢
発表者：時任

理念：大学の専門学校化に抵抗しつつ
専門教育を媒介として、グローバルな社会人を育てる
（単に就職を目的としない）　→専門知の価値を横断的に伝える
方略：入試 ― 宿泊型（一泊に限らない）

入学後



ではなく



・副専攻を設ける
→評価を区別しない
・国内、国外留外を行う
（→国内は、地方からの流出を防ぐ目的にもなる）
・英語による授業の実施 → グローバルな社会人
・横断型授業の何コマかを必修化

評価：教員ＦＤ　＋　学生ＦＤ
→ メタ認知→動機付けにもつながる

英語による教育を可能にするような

これらにより、直接、将来の授業と結びつかなくとも、
専門的な知の役割を正しく理解した
社会人を育てる。→ 研究の場でもある大学の価値を
社会の中でプロモートすることにつながる。

Ｅ４２Ｗ（Ｆ班）

司会者：飯尾
記録者：成田
発表者：成田

1. 大学の理念　目標
   個性は求めるものでなく つくられるもの
   教員の研究、論文発表が最終的に個性となる
   固定観念にとらわれない研究
   遊　×　研　→　（答えはなし）
2. 方略
   出前講座、出張講義などによる社会貢献
   学問の有用性を早い段階に伝える
   →　中等教育との連携
3. 実行計画
   積極的な社会参加
   プレゼンテーションの活用
4. 評価
   学内：　異部門での相互評価
   学外：　大学間での相互評価

◇グループ作業記録　プログラムⅡ　全体討議記録

C→D　質問　　大学の理念はどう保障される？
　　企業が丸がかえ？

　　D　　長期スパンでみるとグローバルが大切
　　大学が主導権をとる
　　理想の大学を考えた時に予算と就職を考えた

C→D　質問　　お金を出している企業が力を持つのは危険
　　地域とのかねあいはどうか？

　　D　　大きな額というよりは少額でやっていくようなイメージ

E→A　　ＯＢ・ＯＧを招く→失敗した
　　B　　自分にも他人にも関心のない学生にどう対応する？

　　B　　学生は自分の幸せを感じているが、もっと回りに目を向け
　　人の役に立つ幸せを学生に味わわせてあげたい

　　A　　学生やる気だせないということを何とかしたい
　　段階をふんで殻をやぶるような体験をさせるために
　　地域の方や卒業生と連携していけたら…。
　　自分の学習だけでなく周りからの評価も大切に

　　E　　卒業生　カード会社社長　教授から叱られた卒業生の活用を啓発してほしい

　　B　　１人の学生をいろんな人からそのよさをみつけていくような
　　大学にしていけたら…ということを説明し忘れた

　　E　　圏外留学→日本の中にも多様性ある
　　地元の大学で学びながら都市部で学ぶのもありなのでは…。

プログラムⅢ記録「科目設計1:授業名と目標，内容の作成」

花火班（Ａ班）

司会者：松田
記録者：野呂
発表者：山之井

『大学の個性を発揮する授業』
・ＰＤＣＡを回せること
・地域課題に対応する？
・体験共有→実行可能性を確立

生涯教員にもつながる

「ビッグプロジェクト」をつなぐ　伝えていく

・｛イノベーティブな人材／愛される大学｝→これを示せる授業にすべき → 大学の個性

○対象年次…初年度（１年次）？～ 大学には1～4年次の 縦割り 授業はない…

縦割の授業とする

学年で学生の個性を見て役割分担を行う形

将来的にはスピンアウトしてプロジェクト実施も

教員 メンター 調整役

テーマによって地域の キーパーソン メンター

卒業生もバックアップ

※年度毎に目標をたててもよい

１年	２年	３年	４年
体験	実労	ｺｰﾃﾞｨﾈｲﾄ	検証
			総括
			ﾘｰﾀﾞｰ

《目標》
・社会のしくみを知る（たてのつながりをつうじて）
・多様な主体が参画するので人芸性を養う．主体性を養う
・最終的にはプロジェクトのコーディネイトができる
・プロジェクトを実行できる．検証できる．（総括・検証）
（年次毎に目標の設定も）

社会にとっても将来の雇用にむけた学生の資質評価につながる

《授業の内容》
・初回はプランニングのベース（すすめ方）のオリエンテーション
・２回目以降は３～４年をリーダーにすすめる
・キーパーソン・卒業生をヒヤリング対象やメンターとして活用 ← 無償で協力？
オブザーバー

佐藤錦班（B班）

司会者：樋渡
記録者：大田
発表者：星野

B　主体的とは…　・課題を与えて取り組める
→・動く（自ら）ための目標と計画設計をきちんと立たせる
・「やればできる!!」という気持ちを持たせる　（全て肯定感）
・不安の解消
・グループワーク以外にも何かないか…
→・誰かに何か助けを出せる環境…学内の弱い立場を変える!!
・教える→グループワークなど主体的→自ら学ぶ姿勢
・講義でも課題の共有から議論へ

（仮）高校生に大学の魅力を伝えよう

目標
・自分の将来を考える
・自分の過去を振り返る
・自分の「今」をどう伝えるか…理由づけしてもその理由が大学で学ぶ姿勢につながるのでは…？

過去　→　現在　→　未来

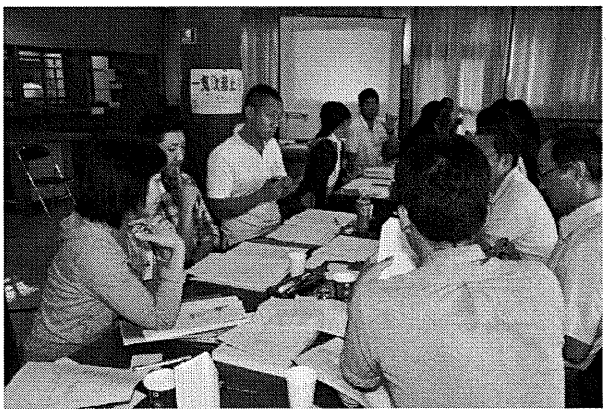
・自身のない学生にも自信をつけるきっかけになる（自分の人生を語ることで…）

⇩

個人が自分の将来設計をする
過去・現在・未来を考える・見直す

―― 後輩に伝えることが主体性を養う

授業　・講義・グループ・個人・プレゼンテーション・母校で発表
能動的学習法



Ｃ＆Ｃ班（Ｃ班）

司会者：伊藤
記録者：多田隈
発表者：東

１．・地域性とは？ ⟶ 地の利
　作業２　学習目標の設定　　ホームグラウンドの優位性
　・自校史（自分の学校の歴史）の学習
　　じこうし
　・フィールドワークの実施　→　「地域の中の大学」
　　「大学の中の自分」を　理解
　　立体的に
　・対象：１年生　前期

２．　学習の目標の記述：
　「世界の中での立ち位置やアイデンティティを地域性に基づいて
　　自分の言葉で説明できる」学生を育成する。
　・知識：自校史
　・技能：パワーポイント
　・態度、習慣：講義で学んだことを中核として勉強を続ける。
　・自分達から積極的に「地域の中の自分」を話せるようにする。
　・能動的な学習・思考を学生に行わせる。

３.週１回９０分の講義１５回の実施
　・地域を調べ、学習し、知る。
　・大学を調べ、学習し、知る。
　・自分を調べ、学習し、知る。

イニシャルＤ班（Ｄ班）

司会者：角田
記録者：西山
発表者：粟野

１．授業名の検討
　国際性とは？　　英語ｏｒ各国の歴史とか　／　コミュニケーション
　　⟶ 実践的グローバルコミュニケーション

２．
　・外国人とコンタクト（Facebook. Skype. etc）して
　・あるテーマでプレゼンする
　　⟶ 各国の生活習慣、異文化理解、文化の違いなど
　　大学側から、テーマ or 国を指定する
　　（「グローバル人材の育成」という社会ニーズへの対応）
　・プレゼン能力の育成

３．・イントロダクション（講義説明　＋　グループ分け）
　・テーマの設定
　・テーマのプレゼン（グループごと）
　・講義中は、コンタクトなどの作業（学生）＋　教員のアドバイス
　・最後の３週は、各グループごとの成果発表
　　（学生間投票も行う）

いなかっぺ班（Ｅ班）

司会者：高岡
記録者：佐竹
発表者：武樋

２１世紀の諸課題に対応する授業

２１世紀への階段

１．踏まえておくべきことがら
① 国際関係　外交　グローバル化
② 地域環境　エネルギー　資源
経済
③ 高齢化　少子化
世界的な人口問題　**人口・経済問題**

発展途上国における人口増加
日本では少子化が問題

２．学習目標　**学生に考えてもらう**

新聞記事　→　様々な学問の観点から論じることができる

レポート
討　論　**グループ討論**
現　場　実　践
分　析
報告書　活動記録　ポートフォリオ（タブレットの活用）

Ｅ４Ｗ２班（Ｆ班）

司会者：伊藤
記録者：吉田
発表者：吉田

① 将来の職業発掘
―「良い意味で」恥をかく―

② 職業を研究し、プレゼン力も獲得する
外部講師（ＯＢ―気象庁勤務、カードゲーム社長）の活用

③ １回　職業紹介　紙ベースでＯＢ等のそれ（多数）を紹介
２回　外部講師の話　―　全員が質問
３回～４回　個人発表
５回～６回　グループ発表
７回　中間評価　―　外部講師による
８回　職業紹介　紙ベースでＯＢ等のそれを紹介
９回　外部講師の話　―　全員が質問
10 回～11 回　個人発表
12 回～13 回　グループ発表
14 回　最終評価　―　外部講師による
15 回　振り返り　―フリーディスカッション

◇グループ作業記録　プログラムⅢ　全体討議記録◇

9：20～

Ａ班　　大学の個性を発揮する授業

Ｂ班　　主体的に考える力を育成する授業

Ｃ班　　地域性と関連する授業

Ｄ班　　国際性を培う授業

Ｅ班　　21 世紀の諸課題に対応する授業

Ｆ班　　職業意識と労働意欲を培う授業

質疑　　Ｅ　→　Ｂ　知識や能力が身につくのか？大学の授業として

Ｂ　「主体的にするためのモチベーションを与えるのが主眼」

Ｂ追　「大学生が大学で自己を振り返ることに意味がある」

Ａ　「同じことをやっていても価値としては高められる」

司会　　学生の主体性をどう導くのか？各班コメントを

Ｅ　確かに教員から学生に投げるだけでは難しい。新聞などのきっかけを使って学生自らに課題を発展してもらいたい

Ｃ　→　Ｅ　「21 世紀の諸課題」は広すぎて大変では

Ｅ　「然り。そこで学生自らの課題発見対応能力を育てたい」

プログラムⅣ記録 「科目設計2:シラバスの完成」

授業科目名　学生による地域イノベーション(花火班（Ａ班))

担当教員：
開講学年：３　年　　開講学期：　通年期　　単位数：　４　単位
開講形態：

【授業概要】

- テーマ
  本学は「愛される大学」「イノベーティブな人材を造る大学」として地域に位置付けられた役割を持つ。そこで、地域課題に対応する人材を育成しつつ具体的な課題にとりくみ体験型講義を展開する
- ねらい
  １年次から４年次、卒業生（地域の keyperson）を１つのグループにし、多様な主体の参画により、社会のしくみやその中での活動により人間性、主体性を養う。年次毎の帰結ではあるが、在学中の学生のテーマの展開や発展性があり、又卒業生とのつながりから社会性、実践力の育成をねらっている。
- 目標
  １年次：体験・参画する
  ２年次：テーマ、目標に沿って具体的な行動（実働）を行う
  ３年次：テーマ、目標に沿って具体的な行動に移すためのコーディネイトを行う
  ４年次：テーマ、統括を行い、リーダーシップをとる
- キーワード
  地域、主体性、組織

【授業計画】

●授業の方法
　講義、フィールドワーク

- 日程
  第１回　テーマ設定、プランニングのベース（進め方）のオリエンテーション
  第２回　実行計画をたてる
  第３回～６回　ヒヤリング
  第７回　中間報告
  第８回～14 回　実践
  第 15 回　最終報告（公開）

【学習の方法】

- 受講のあり方
  ・積極的な参画を求める
- 予習のあり方
- 復習のあり方

} 主体的にとりくむこと

【成績評価の方法】

- 成績評価基準
  自己、外部（教員、卒業生）
- 方法
  中間報告　最終報告　実践報告

【テキスト】
【参考書】

} 適宜使用

授業科目名　キャリアデザイン　（佐藤錦班（Ｂ班））

担当教員：　松坂暢浩　　担当教員の所属：山形大学

開講学年：　１　年　　開講学期：　後期　　単位数：２単位　　開講形態：演習

【授業概要】

- テーマ

  高校生に大学の魅力を伝えよう

  ～　人生のパラダイスシフト　～

- ねらい

  自分の過去、現在、未来を見つめて、大学生としてより専門的に将来について考える

- 目標

  ①　自分の過去、現在、未来を見つめることで、現在学んでいることの意義を考え、将来のビジョンを描くことができる。

  ②　①を高校生に伝えることができる

- キーワード

  専門性、将来性、自己理解、高校と大学の違い

【授業計画】

●授業の方法

・個での演習を主とするが、適宜グループワークを入れる

・母校へのプレゼンテーションを行う

●日程

第１回目：オリエンテーション

第２～３回目：現在について考える

第４回目：過去について考える

第５～７回目：未来について考える

第８回目：中間発表・評価

第９～12 回目：修正、プレゼンテーション準備

第 13～14 回目：高校でのプレゼンテーション

第 15 回目：振り返り

【成績評価の方法】

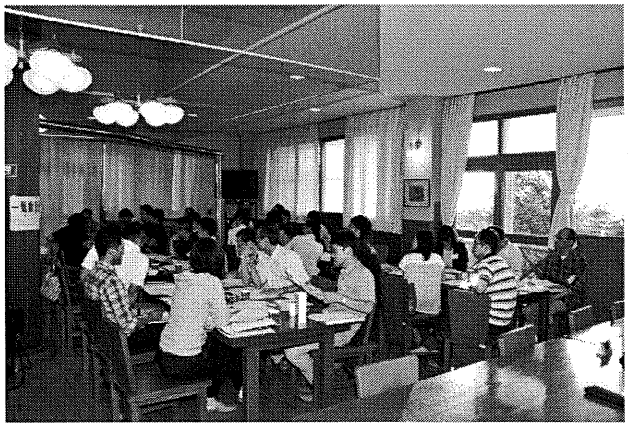
●成績評価基準

目標達成度

●方法

・ポートフォリオ評価

・第１回目、第 15 回目の授業レポート評価（課題は同じ）



授業科目名　地域と大学と私　（C＆C班（C班））
開講学年：　年　開講学期：　単位数：　単位　開講形態：

【授業概要】

- テーマ
  地域の中での大学と自分の立ち位置を地理的、歴史的にマッピングすること。
- ねらい
  自分のビッグ・ピクチャーの土台作り。
- 目標
  世界の中の自分の立ち位置とアイデンティティを地域性に基づいて、自分の言葉で説明できること。
- キーワード
  地球、大学、アイデンティティ、社会貢献

【授業計画】

●授業の方法

・グループ発表形式
・フィールドワーク形式
・レポートの作成

●日程

1. 自己分析とオリエンテーション

2. 自校史の学習（Ⅰ）:（歴史・研究）　3.　〃　（Ⅱ）:（設備・スタッフ）
4.　〃　（Ⅲ）:（学生）　5. 大学の各セクションのスタッフを呼んできて話をお聞きする

6. 地域から見た大学　7. 地域の方を呼んで話を聞く（産業関係者）
8. 地域の農業・工業関係者の話　9. 大学ＯＢ、ＯＧ、親を呼んで話を聞く

10. 中間発表

11. 地域の中の大学（地域分析）　12. 地域の歴史・文化のフィールドワークによる理解と学習
13. 地域の産業・商業の理解と学習　14. 地域の各要素と大学の有機物なつながり

15. 最終発表

「差分」をチェック（成長度）

【学習の方法】

●受講のあり方

グループ発表の中で、最終的な発表内容に自分の意見や調査結果が反映されるように、積極的に意見を述べると共に、その意見に十分に学術的価値が含まれるように、可能な限りの予習、復習を心がけること。

●予習のあり方

フィールドワークとして自分たちのグループが訪問する場所の事前調査をすること。

●復讐のあり方

講義で学習したことに基づく「自己分析」に地域との関わりを反映できるように努力すること。

【成績基準の方法】

●成績評価基準

・グループ発表において、講義を学んだ知識・技能を活かして積極的にグループのプレゼンテーション内容の向上に貢献したか

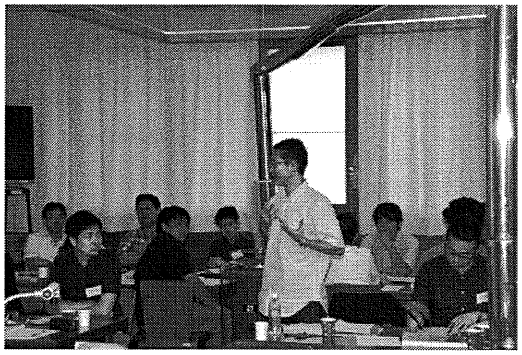
・良いレポートをまとめたか

・自己分析に地域との関わりが反映されているか

●方法

・グループ発表全体の評価

・個人の提出するレポートで評価



【その他】

●学生へのメッセージ

将来の長期的な展望であるビッグ・ピクチャーの「器」作りに努めて下さい。

授業科目名　実践的グローバルコミュニケーション（イニシャルＤ班（Ｄ班））

開講学年：　１年　　開講学期：　前期　　単位数：　２単位　　開講形態：　必修

【授業概要】

● テーマ

自国を知り他国を学ぶ

● ねらい

・主体的に課題設定ができる

・自らが発信者として国際交流ができる

● 目標

① 自国と他国の理解を深めるためのテーマを、主体的に設定できる

② 異なる言語の相手に対し、適切なコミュニケーションツールを選択できる

③ 成果を第３者に伝えることができる

④ 主体性を持ってグループ活動ができる

● キーワード

グローバルコミュニケーション、国際交流、異文化理解

【授業計画】

●授業の方法

講義

グループ演習

プレゼンテーション

自習

●日程

第１回・イントロダクション（概要説明＋グループ分け）

第２回・班毎のテーマ設定、スケジューリング

第３～５回・グループ演習（インタビュー、コンタクト、編集 etc）

第６～７回・中間発表　＋　フィードバック

第８～10 回・グループ演習（発表準備）

第 11～14 回・最終発表＋学生投票

第 15 回・結果発表とまとめ（講義）

【学習の方法】

● 受講のあり方

・日頃から異文化理解を深めるため視野を養う

・基礎英語やＳＮＳの基本的な使用法、またグローバルスタンダードでのマナーを心得ておく

・意欲的なグループ活動・全体発表に参加する。

● 予習のあり方
・日常会話、ビジネスメールなどを英語でできるようにしておく
・各国の情勢をＮＥＷＳなどに触れ把握しておく
・ＰＣ、スマートフォン etc インターネットツールやメーラーの使い方を習得しておく
● 復習のあり方
・教員からのアドヴァイスを反映させ、グループで熟議する
・最終発表での経験を踏まえ、個人レポートで総括する

【成績評価の方法】
● 成績評価基準
目標を理解し、主体性を持ってグループ活動を行うことができることを一つの基準とします。
また、グループ発表の他、個人レポートによって個別の達成度をはかります。
● 方法
中間発表（２０％）、最終発表（５０％）、個人レポート（３０％）

【テキスト】
特に用いない。

【参考書】
適宜指示する。

【その他】
●学生へのメッセージ
外国語に自信がなくても大丈夫だよ！

授業科目名　２１世紀への階段　（いなかっぺ班（Ｅ班））

担当教員：武樋　　担当教員の所属：日本大学工学部

開講学年：１～４　年　　開講学期：　春期　　単位数：　２単位　　開講形態：

【授業概要】
● テーマ
21 世紀の諸課題に対応
● ねらい
２１世紀を生きる上で、諸課題に対する理解を深め、解決する力を育成する。
● 目標
① 多面的に物事を捉える力をつける（情報収集力）
② 課題を解決する力を身につける（問題解決、行動力）
③ 他人に伝え、共有する力をつける（コミュニケーション力）
● キーワード
２１世紀の諸課題

【授業計画】
● 授業の方法
グループ形式によるプロジェクト学習
● 日程

１．説明・オリエンテーション	９.まとめ
２．下調べ	10.発表
３．　〃	11.実践（改）
４．　〃	12.　〃
５．まとめ・発表	13.　〃

6．実践　　14.まとめ
7．〃　　15.発表
8．〃

【学習の方法】
- 受講のあり方
  - ・グループとしての活動記録をつける
  - ・個人としてのポートフォリオをつける
  - ・役割を決めて責任をはたす
- 予習のあり方
  - ・ニュース（時事）を読んでおく
  - ・テーマごとの専門図書を読んでおく
- 復習のあり方
  - ・活動記録、ポートフォリオを読んでおく

【成績評価の方法】
- 成績評価基準
  - ・ポートフォリオの提出の有無
  - ・相互評価の結果
- 方法
  - ・ポートフォリオを読んで役割通りの働きができたか判断する
  - ・相互評価のコメント

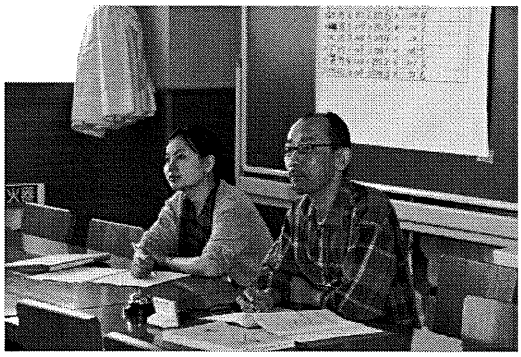
【テキスト】
学生が選んだテーマに応じた専門図書

【科目の位置付け】
全学が対象

授業科目名　将来の職業発掘　（Ｅ４Ｗ２班（Ｆ班））

開講学年：　年　　開講学期：　　期　　単位数：　　単位　　開講形態：
開講対象：　　科目区分：

【授業概要】
- テーマ
  「良い意味で」恥をかく
- ねらい
  職業を研究し、プレゼンテーション能力を獲得する。
  外部講師（ＯＢ・ＯＧら）を活用する。
- 目標
  - ・プレゼンテーションのスタイルを、自発的に形作る
  - ・様々な職業の魅力を説明できる



【授業計画】
- 授業の方法
  外部講師の講話、および学生個人の発表で構成
- 日程
  （1）　職業紹介（ＯＢ・ＯＧらの職業を多数紹介）

（２）　外部講師の講話（全員が質問）
（３）～（４）個人発表
（５）～（６）グループ発表
（７）中間評価（外部講師による）
（８）職業紹介（紙ベースでＯＢ・ＯＧらの職業を紹介）
（９）外部講師の話（全員が質問）
（10）～（11）個人発表
（12）～（13）グループ発表
（14）最終評価（外部講師による）
（15）振り返り（フリーディスカッション）

【学習の方法】

- 受講のあり方
  - ・「知る」のみではなく、「聴く」「伝える」を重視する
  - ・他者、もしくは他のグループの発表にも関心を払うこと
- 予習のあり方
  - ・外部講師の講話の前に、質問事項を用意する
- 復習のあり方
  - ・各回の講話や発表について、気付いた点などを複数整理する。

【成績評価の方法】

- 成績評価基準
  - ・評価記入表を毎回配布し、教員だけでなく（外部講師も含む）学生にも相互評価を記入してもらう。
  - ・振り返り（最終回）を踏まえ、その結果をレポートとして提出。
- 方法

〈中間評価〉３０点　〈レポート〉２０点　〈最終評価〉５０点　　計１００点

◇グループ作業記録　プログラムⅣ　全体討議記録◇

11：29～

F ➡ グループワーク　何もしない人がでてくるのでは？評価方法は？
（ＢＣＤＥ）

Ｅ　―　ポートフォリオ　役割分担を明確にしておく

Ｂ　―　成長を実感してもらうことを大切にしている

Ｃ　―　誰が何をしている　レポート作成で成長を把握

Ｄ　―　モデルケースの提示→方向性をある程度きめる　安全性を考える

計画をチェック　　中間評価　　フードバック

Ａ ➡ Ｄ　１５回でコミュニケーション能力　難しいのでは？

・１年前期　きっかけを作る

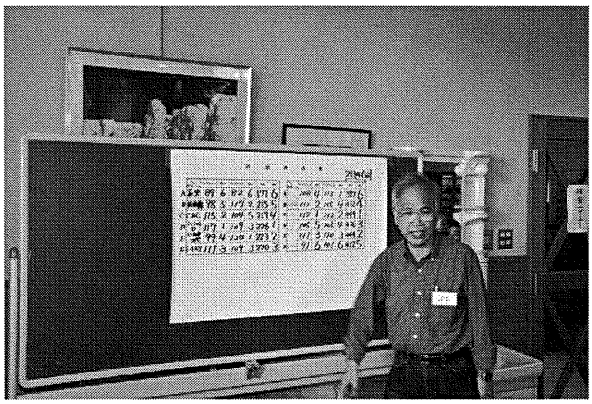
・サポートして実際にできることで、可能なことを実感してもらう

・日本語を話す人をみつける力を主体性

・言語を学ぶのではなく、交流が目的

Ｃ ➡ Ａ　縦割プロジェクト　１５回でするのは難しいのでは？
学年による役割分担も主体的に決めさせたほうがいいのでは？

・提案をし、広がっていくといいと考えている



【第２チーム】ＦＤ合宿セミナープログラム及び記録

○プログラム抜粋

ＦＤ合宿セミナーに当たって

山形大学では，平成 13 年度よりこの合宿セミナーを実施し，教養教育の目標や授業の企画，シラバス作成を通して授業のスキル向上を実現するとともに，学部間の人的交流の拡大・充実を図ってまいりました。このような基盤のうえに，さらに「授業改善」に焦点化したアドバンスプログラムを実施することになりました。

このセミナーの第一の目的は，「個人個人の教員が教育者としての自己認識の深まりと学生の学びを大切にする授業，および授業改善の方法を具体的なケースを交えて考察・議論し，学生を中心とする教育・授業を発展させること」です。この目的を達成するために，本セミナーでは４つの参加型ワークショップを行います。これにより，参加者は学生が運営する学生主体型授業を体験することにもなります。

また，「ワークショップを共通の題材として，学部間の人的交流の拡大・充実を図ること」が第二の目的です。他部局の参加者と活発な議論を交わしながらプログラムを遂行し，セミナーが終了した後には，参加者が大学の教育分野全般の発展に，より一層積極的に貢献されることを期待しています。

このセミナーは，「構成員こそが大学の財産」という精神で臨んでいます。

更に，このセミナーはＦＤネットワーク“つばさ”の参加校を始めとして，全国の大学等に開かれています。本セミナーが，相互研鑽の精神に則り，参加された大学・短大・高専の発展に寄与されんことを願っております。

第２チーム参加者と山形大学教育開発連携支援センター　須賀センター長（前列右から４人目）

第13回　山形大学ＦＤ合宿セミナー日程表

期　間　　第２チーム：平成25年8月27日（火）～28日（水）

○第１日目

時　　刻	項　　目	担　　当
12:45	山形大学小白川キャンパス集合・受付	
13:00	送迎バス　大学出発	
14:00	会場到着・記念撮影　セミナー開会 開会のあいさつ	司会：杉原
14:30	オリエンテーション	杉原
14:40～15:10	アイスブレーキング	田実
15:10～16:50	プログラムⅠ「学生が求める授業とは？－大学教員の美しき誤解－」	田実
16:50～17:00	休憩（10分間）	
17:00～18:10	プログラムⅡ「学生のニーズに応える授業力とは？－インタラクティブな授業－」	田実
18:10～19:00	夕食	
19:00～20:00	入浴・休憩	
20:00～22:00	懇親会	
22:00	中締め	
23:00	就寝	

○第２日目

時　　刻	項　　目	担　　当
7:30～	朝食・部屋の清掃・部屋退出	
8:30～10:00	プログラムⅢ「授業力の向上－わかりやすい授業を実現するために－」	大島
10:00～10:10	休憩（10分間）	
10:10～11:40	プログラムⅣ「研修のふりかえりとまとめ」	大島
11:40～	修了式（ポストアンケート）	司会：杉原
12:20～	昼食	
13:10	送迎バス　蔵王山寮出発	
15:00頃	山形駅経由　大学到着　解散	

【留意事項】

○セミナー期間中の途中からの参加及び離脱は禁止とします。

○セミナー期間中の個人の呼称は，「○○さん」とします。

○食事はセルフサービスとなります。食事時間になりましたら，共同で配膳作業等を行ってください。

○起床と同時に，**寝具を使用前と同様に整理・整頓**し，使用した**宿泊室・廊下等を清掃**してください。

○退出の際は，使用したシーツ・枕カバーをたたんで，指定する場所に返却してください。

○スキーヤーズベッドは各部屋２段になっておりますが、清掃と危険防止の観点から２階部分は使用しないでください。

○ベッド上での飲食はご遠慮ください。

1日目

DR-A	北星学園大学 田実　潔
DR-B	東京工芸大学 大島　武

A班

所属	氏名	性別
福山市立大学	西川　龍也	男
鶴岡工業高等専門学校	小野寺　良二	男
青森大学	柏谷 至	男
関東学院大学	星名　美幸	女
山形大学	富松　裕	男
山形大学	中島　修	男

B班

所属	氏名	性別
会津大学	阿部　泰裕	男
愛知工科大学	大竹　才人	男
國學院大學	吉永　安里	女
清泉女学院大学	和田　順一	男
山形大学	中村　誠	男
山形大学	田中　聡美	女
山形大学	金子　淳	男

C班

所属	氏名	性別
会津大学	青木　滋之	男
ものつくり大学	宮本　伸子	女
國學院大學	飯倉　義之	男
清泉女学院大学	山貝　征典	男
山形大学	加藤　真理子	女
山形大学	阿部　晃士	男

D班

所属	氏名	性別
青森公立大学	紫関　正博	男
ものつくり大学	佐久田　茂	男
東北芸術工科大学	酒井　清一	男
山形大学	中森　健之	男
山形大学	許　時嘉	女
山形大学	橋爪　孝夫	男

E班

所属	氏名	性別
了徳寺大学	伊藤　裕子	女
京都薬科大学	細井　信造	男
明海大学	樋口　倫子	女
山形大学	永井　岳大	男
山形大学	千代　勝実	男
山形大学	梶原　晶彦	男

F班

所属	氏名	性別
八戸学院大学	加来　聡伸	男
明海大学	高橋　南海子	女
いわき明星大学	高　三徳	男
清泉女学院大学	村中　泰子	女
山形大学	時任　隼平	男
山形大学	中村　隆	男

オリエンテーション

1　ＦＤの必要性

①　大学の社会的教育責務の明確化
②　大学教育を教員中心から学生中心へ移行することの教員の意識改革
③　大学生の質の変化への対応

2　合宿セミナーの目的

①　教員個人が大学を支えることの位置付け
②　学生一人ひとりの発達と同様に教員一人ひとりが同僚の力を得て発達することを改めて確認する
③　教授法について共に考え，スキルアップする
④　教員相互の交流

3　セミナー形態

体験型のセミナーで，セミナー自体がグループ学習形式であり，参加者は，学生が運営する学生主体型授業を体験することになります。

①　参加者によるセミナー全体の運営
②　セミナーのグループ構成：６班
「プログラムⅠ・Ⅱ」（１日目）と「プログラムⅢ・Ⅳ」（２日目）で，班構成を替えます
③　プログラムによっては，全体での発表の際に記録をとるための記録係を置く場合があります。また，グループワークにおいて，各班に，司会者，記録係等を置く場合もあります
④　「③」で記録したものは，各プログラム終了後に提出していただきます（この記録は，こちらでコピーした後，速やかに全班に配付します）
⑥　最終日に合宿セミナーに関するポストアンケートを実施します

プログラムⅠ「学生が求める授業とは？－大学教員の美しき誤解－」

ここでの課題

プログラムⅠ「学生が求める授業とは？－大学教員の美しき誤解」では，まずいくつかのデータをお示ししたいと思います。それを基に，学生参加型授業の大切な(と勝手に私が思っている)構成要素である学生の大学授業に対する意識を明確にし，大学教員との意識のギャップを皆さんで考える時間にします。

その上で，後半は参会者の皆さんの授業実践を持ち寄り，共有することにします。他の人の実践には必ず学ぶべき点があるように思います。自分では気づかなかった点でも，実践を交換するうちに，気づかされたり指摘されたりすることもあります。良い点を見つけ合いましょう。

○　プログラムの講師による講義	６０分
○　作業内容の説明	５分
○　グループでの協議・プレゼン	１０分
○　グループでの選択協議	５分
○　各グループ発表	２０分

全体で 100 分

プログラムⅡ「学生のニーズに応える授業力とは？
ーインタラクティブな授業ー」

ここでの課題

プログラムⅡでは，コミュニケーションに課題のある発達障害のある人への支援や研究から，インタラクティブ(相互交流)のある授業作り(とても簡単なことです)について，いくつかの知見をご紹介します。その上で，予め用意された授業課題について，数人の参会者の方にプレゼン(模擬授業)をして頂きます。学生役の皆さんを含めた意見交流から，インタラクティブな授業について，議論ができたらと考えています。

○　インタラクティブな授業のヒントの説明	１０分
○　グループごとに与えられた題材について討論	１０分
○　プレゼン前の打ち合わせ	５分
○　プレゼン	２０分（１０分×２）
○　まとめと質疑応答	１５分

全体で 60 分

プログラムⅢ「授業力の向上ーわかりやすい授業を実現するためにー」

ここでの課題

プログラムⅠ～Ⅱで検討した学生のモチベーション向上，授業への参画を実現するためには，まず教える教員自身に指導力・授業力が求められます。「わかりやすい」「興味の湧く」授業を実現するにはどうしたらいいのか。このセッションでは，授業スキルの向上という基本に立ち返り，講師の体験に基づく講義をベースにディスカッション形式で考えを深めます。

○　プログラムの講師による内容の説明　５分
○　「授業力向上のためには　ーケーススタディー」　５５分
　→次頁のレジュメにそった講義
○　「よりよい授業を目指して　ーディスカッションー」　３０分
　→講義内容を踏まえ，よりよい授業を実現するためのポイントを整理する。
　→自分の持っている問題点の洗い出しと解決策の模索を行う。

全体で 90 分

【ケーススタディ　～私の授業法～】

１．ガイダンスのしかた

■ 必ずワンペーパー作って渡す。　← 最初の３週間で徹底

２．授業の組み立て方

■ ９０分を３つのパートにわける。　← 話しの構造化

■ 時間の使い方を予告し，守る。　← 全体像を見せることが大切

■ 「つかみ」が大切（冒頭に力点）　← 終わりはすっきり

3．効果的な表現技術

■ 言語表現の工夫

・「例示」の多用　← 相手に合った例を挙げる

・「つなぎ言葉」の活用　← ゆっくり間を取って話す

・「用語」の選択と位置付け　← 新出語に注意

■ 非言語表現の効果

・身体表現　← gesture と posture の使い分け

・対人距離　← 机間巡視／指導はどこまで有効か

・アイコンタクト　← プレッシャーと激励

4．授業ツールの活用

【提示資料】･･･　学生の注意を惹きつける

■「聴かせる」と同時に「見せる」　← 視覚効果は絶大

Cf. 日常生活における知覚機能別情報量

視覚83%　聴覚11%　嗅覚3.5%　味覚1.5%　触覚1%

（小林敬誌他著『プレゼンテーション技法・演習』より）

← やりすぎは逆効果

Cf. 木像よりは絵像，絵像よりは名号といふなり（蓮如）

■ 板書は最高のビジュアル　← 小学校時代からのお約束

【配付資料】･･･　学生の手元に残す

■ レジュメの効果　← 情報を与えすぎない

■ 教科書の使い方　← 買わせたら使う

5．双方向性の確保

■ 発問のしかた　← 大切なのはリズム

■ 紙ベースでのやりとり　← ｅｘ）　巨大出席カード

大手前短大「なるほどポイント」

6．評価のしかた

■ 「合わせ技」が基本　← 内訳をシラバスに明記

ｅｘ）　参加 10%　小テスト４0%　発表 20%　提出物 30%

■ 個人情報保護と説明責任　← 授業期間と終了後で区別

7．まとめ

■ アリストテレスの話し方３要件　← ロゴス・パトス・エートス

プログラムⅣ「研修のふりかえりとまとめ」

ここでの課題

プログラムⅢで議論，検討したより良い授業を実現するためのポイントについて，各グループに発表していただき，全体での分かち合いを行います。また，２日間の研修を通じて，自分のコミュニケーションスタイルが他人にどんな印象を与えたのか，イメージ交換ゲームを通じてふりかえります。

○　プログラムⅣの検討結果のプレゼン　５分ｘ６班　　３０分

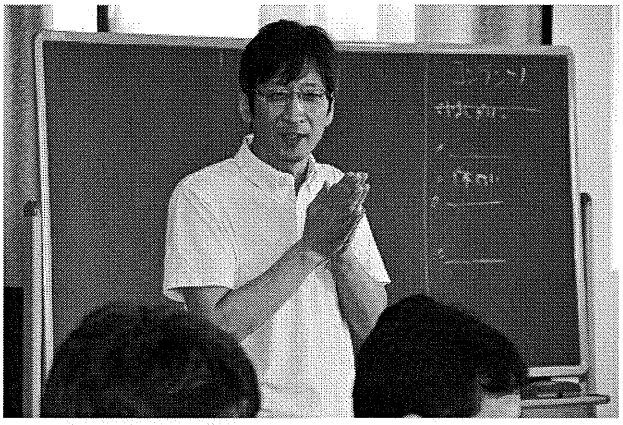
○　イメージ交換ゲームの実施　　３０分

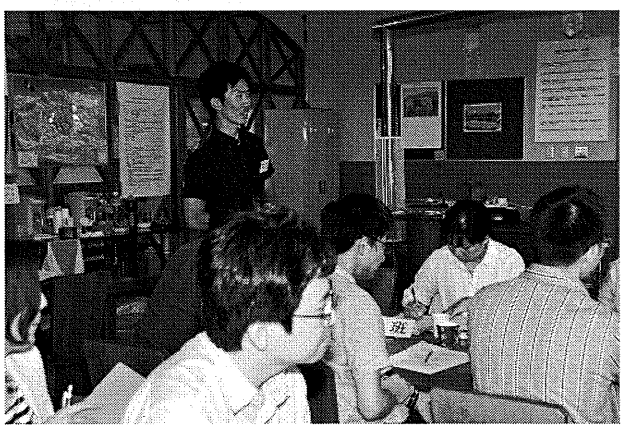
○　イメージ交換ゲームのふりかえり　　１５分

○　研修全体のまとめ　－学びをＦＤに生かしていきましょう－　２０分　　全体で 90 分

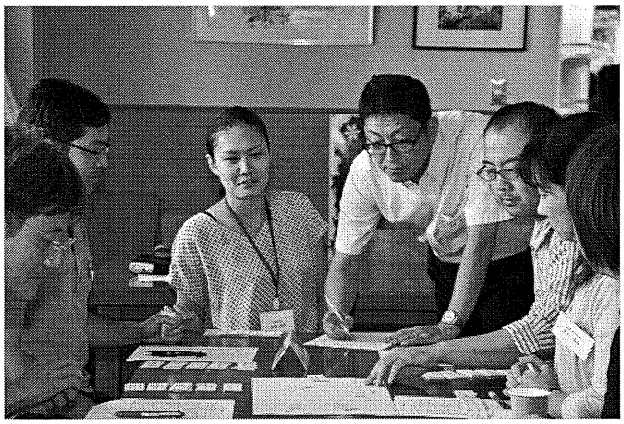
プログラムⅠ記録 「学生が求める授業とは？―大学教員の美しき誤解―」

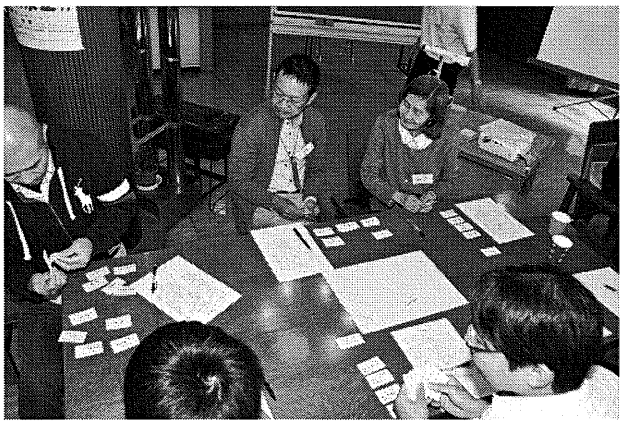
プログラムⅡ記録 「学生のニーズに応える授業力とは？―インタラクティブな授業―」

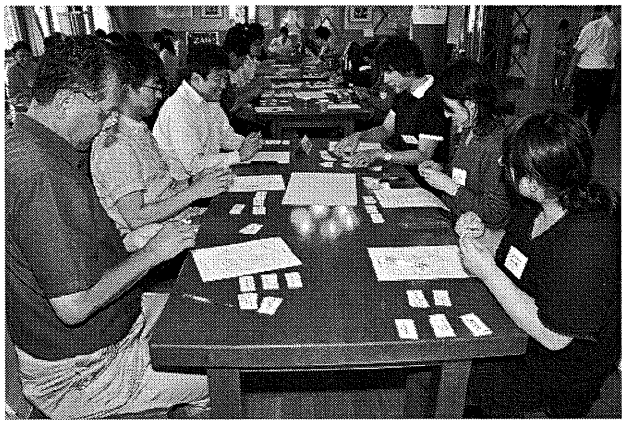




プログラムⅢ記録「授業力の向上—わかりやすい授業を実現するために—」
プログラムⅣ記録「研修のふりかえりとまとめ」







○自由記述

(1)第1チームの回答

①このセミナーにおいて、良かったと思う点

・他大学の自分の専門以外の先生方と交流できた点。
　→ 自分の持っている発想とは違う視点や疑問を投げかけられ刺激的でした。
・自分が授業で行っているグループワークを自分で体験できた点。
・他大学の教員との交流。
・新しい考え方、価値観。
・セミナーの準備がしっかりなされていた。
・参加者の目的意識が高かった。
・他大学・学部・年齢が幅広かった点。
・ゆとりのある日程であった点。
・他大学、他学部の方々と交流できた点。
・授業づくりについてグループで考えることができた点。
・年齢や分野関係なく交流ができた点。
・山形大学に限らず全国の他大学が参加されているので多様な意見・考え方にふれることが出来ました。
・意識の高い先生が参加されており雰囲気が素晴らしい。
・多様な大学・専門分野の教員との協力作業が刺激になりました。実際に学生にグループワークを課す場合にも参考になる内容でした。
・教育について考える良い機会になった。
・システマチックになり、年度ごとに洗練されていると思います。
・いろいろな分野の人と交流し、広い視野を得られた。
・いろんな大学や分野の問題点、解決策を聴けてよかったです。
・他学部、他大学交流。アイデアの出し合い、共有。
・様々な分野の先生が参加している。
・役割分担があり、集中せざるを得なかった。
・参加者が主体的になれたこと。参加者同士で良い関係性がつくれたこと。
・当初は、班別作業が短すぎるとも思われたが、かえって効率よく作業が出来たように思われる。様々な大学による状況の違いが非常に参考になった。
・「地域と大学の連携」という一貫したテーマについて議論できたことが良かったと思います。
・限られた時間で、グループ内で協力して、課題に取り組めたこと。集中できた。
・教員複数人で、シラバス再生共同作業は素晴らしかった。
・日頃は接点を持つことのできない、多様な領域で活躍されている先生方と出会い、交流できたこと。
・学生と同様にグループ活動形式でセミナーを体験したり、全体発表出来たこと。
・時間管理をしっかりされていたこと。
・異なる大学の人と交流できたこと。
・様々な分野の教員の意見を聞くことができて大変勉強になりました。
・参加者と交流できたこと。
・他の大学の先生と知り合い、交流できたこと。
・普段意識していない事案についてゆっくり考えられた点。
・他大学(他分野)の教員との交流ができた点。
・具体的なワークを通じて、大学教育について学べたこと。
・他職種の人達と交流できたこと。グループの人数は6名ぐらいがちょうどよい。
・現時点でどの程度の教育改善案が出せるのかを確認した点。
・短期間に集中している点。
・相互交流。様々な考え方を知ることができた。
・いろいろな分野の方々とお話をすることができた事。
・プログラムの課題と時間配分やマネジメントが適切だったと思います。
・班割がよかったです。
・場所、建物、机、イスの雰囲気。
・意識の高い参加者。
・主催者。

②このセミナーにおいて、良くなかったと思う点(改善すべき点)

・各グループからのフィードバックをもらう機会が質疑応答や点数評価以外であれば良かったのではないかと感じました。
・お互いが競争し、モチベーションが上がる工夫(商品など)をするともっと良いのではと感じました。
・学部による違い。
・学生のレベルによる違いがあり学生の設定が難しい。
・就寝時間が守られていない。学生じゃないのだから、時間を守ってほしい！！23:00以降も声が聞こえてきた・・・。
・入浴と懇親会の順番を入れ替えた方がいい
　→女性の立場として入浴後の生活に気を遣う。
・(初めての経験ということもありますが)一つ一つのプログラムの時間をプラス5分できたら良かったのかもしれません。(厳しい時間設定の方が生産性が高いのかもしれませんが)
・討論できる時間がもう少しいただけるとありがたいです。つめこみ感がある。
・時間が厳しい中、初回(1回目)ではやり方がわからず、うまく進められなかった。最初の説明をしっかりしていただけたらありがたいです。
・討論できる時間が短かったです。
・グループワーク後にDRのコメントやアドバイス、情報指示がない。山寮で合宿形式にする意味がない。大学のキャンパスでやる方がいいと思う。
・特になしだが、宿泊施設はきつかった。
・スケジュールが若干タイトです。
・ⅢからⅣの具体的なシラバスへ落とす過程は、今回全体の流れからすれば、やや具体的過ぎたのではないか？(Ⅲは良いとして)討論の時間が短かったようにも思われる。

（一部交流会を減らして、まわしてもよかったのでは？）
・少し発表の時間が短かったと思います。全体のスケジュールを考えると仕方ないのかもしれませんが・・・。
・ベッド２階使用不可はアナウンスしても良いか。
・場所（もっと便利なホテルでやった方が良い）。
・発表時間を長くしてほしいです。
・時間をかけた割に、プラスになる点を見出せなかった。非生産的な活動に感じた。
・位置付け、日程（時間配分を含む）、利用施設等全般。
・このセミナーが、学内でどのような具体的効果を生んでいるのか、及び、教員がこのセミナーについてどのように考えているのか、他大学の先生方も含め、一度大規模なアンケートを実施してみるべきでしょう。（参加したことがない先生方も含む）
・懇親会のメニュー。
・基本的には改善点はないが、もっと他県、他大学の参加があるともっと良いと思う。
・山寮で行った意味は最後までわからなかった。
・往復の時間があればもっと違ったこと（または通常の業務）ができると思う。
・入浴時間を割り振った方が良いと思います。
・各グループとも、似たような授業設計になってしまう。
・議論の時間が短い。
・発表者が紙を交換するのではなく、スライド係を作って、発表者は発表に専念できる様にしてほしいです。
・なぜ蔵王の山の上で行うのか（交通の便）。
・各作業のレジュメ内の項目を見直して頂きたいです。
・思い当たらず。

③このセミナーに参加して、これからの自分の授業並びに教育活動をどのように展開していこうと考えていますか。
・まず後期シラバスを見直してみたいと思っています。
・実際に授業に導入できるものが多数ありました。特に学生に主体性を持たせる方法が見つかりました。
・学部専門の授業でも、演習型の授業を取り入れたいと思った。
・学生にとって主体的な授業を作っていきたいです。
・実技形式の授業を担当しているので、大学生の意欲をかきたて、ニーズに応えられるような授業を目指したい。
・主体性の成長・学生などのニーズに十二分に答えられるよう、授業設計をしていきたい。
・学生の主体性を引き出す授業を展開したいと思います。
・学生が積極的に参加する授業にしたい。
・大学の研修に活かしていきたい。
・学生主体の内容をとり入れ、実践力を身につけた教育を心がけたい。手法は、更に考える必要はあるが・・・。
・スタートアップセミナーやゼミ、学生主体型の教育をやってみたいです。
・グループワークの行い方は、教養で使えそう。学部横断型はやりたい。
・学生主体の活動を増やしたい。
・事務職なので、FD委員会に報告したい。
・Yes。ぜひ、その結果も来年に共有したいと考えています。
・「世界の中での自分の立ち位置を」しっかり認識した。主体的な学生を育てていきたいです。
・学生の参加をどう作っていくか考えていく。
・シラバスはアレンジして是非活用したい。
・どこを向いて授業を展開していくか、教育活動に取り組んでいくかを改めて考えるきっかけになりました。
・学生主体について→真剣に考えていきたい。
・自分の授業でも学生にわかりやすく、ビッグピクチャを示していきたい。
・学問を第一にし、学生にはしっかりとした基礎学力を身につけさせ、たくましく社会に出ていかせようと思った。
・4月の新任教員研修の内容とほぼ重なっただけでなく、配布されたマニュアルにも全て記載されているので、目新しい成果はなかった。
・テキスト、教科書通りの授業だけではなく『主体性』を育てる授業にできればと思う。
・シラバスの具体的な書き方と学んだので、早速活かしたい。
・プレゼンの方法は大変勉強になった。
・グループワークを積極的に取り入れてきたいと存じます。また評価方法に工夫を加える余地が十二分にあると考えました。
・モチベーションに違いがある。学生にどの様にプレゼンするべきか、考えさせられました。
・社会と学生ニーズをより取り入れたいと思いました。
・自分が担当する授業へ応用。FD委員として学内で展開。

④ご自由に感想を書いてください。
・ぜひ、この学びをその後参加された先生方がどう生かしているかを調査していただきたいです。
・山形大学の授業参観。FDに対する考え方やこれまでの経緯などのセミナー（オプションで午前にセミナーがあっても良いのでは）。
・決して積極的な気持ちで参加したわけではなかったのですが、今は参加して良かったと思っています。日頃１人で授業づくりについて悩んでいることの解決にもつながりました。この企画、運営のための準備等本当にありがとうございました。
・大学に就任したばかりで FD に関してほとんど知識がなかったのですが、楽しい交流の場を通して良い研修ができたので大変良かったです。ありがとうございました。
・多くの事に触れることが出来たので振り返りをし、学生の成長に資する様、自らの質、大学の質を高められる様取り組みたい。
・企画大変お疲れ様でした。来年度もよろしくお願いします。
・他大学全体のサポートも山形大がされてもいいんじゃない

でしょうか？

・強制参加で来ましたが、1度は参加する価値はあると思います。お世話になりました。ありがとうございました。
・あまり新たな発見がなく残念だった。DRからのフィードバックが欲しい。
・久しぶりの主体的に参加する研修であった。きつかった面もあるが、良かったとは思う。
・「FD」はこれからの大学、日本にとってとても重要なものであると思います。大学それぞれの「ビッグ・ピクチャー」を確立していける時代が到来する契機に、このFD合宿がなることを切に望みます。
・たくさんの情報の中で、学生の主体性をどう力付けていけるか考えていきたい。
・他大学、他学問の先生との交流の機会は大変有難い。
・地域における大学の存在意義や、大学の教員として期待されていることをじっくりと考えることのできた 2 日間でした。私自身はまだまだ教員としてスタートしたばかりで未熟ですが、今回このセミナーに参加できてとても良かったと思います。自分にできること、期待されていることをわきまえ、今度も自己研さんを続けながら、大学教育に熱い気持ちで携わっていきたいと思います。山形大学のみなさま、本当にありがとうございました。
・スケジュールがまだタイトな気がする。
・FD合宿セミナーに参加するのは今回が初めてだったのですが、大変有意義な時間でした。この成果を大学に持ち帰り、大学全体のFD向上に役立てたいと思います。
・大学は研究を第一にし、地域からは愛着ではなく尊敬の念をもってもらう方が正しいあり方と考えている。研究を行うことで、大学をよくしたい（研究レベルを維持しないかぎり、如何なるFDも地域貢献も説得力のないものになると考えている）。
・研修には楽しさも必要と思います。日程配分や利用施設等の再考は必須でしょう。山形には温泉地も多いですから。
・今回、初めて参加させていただき様々な刺激をもらいました。
・寝る場所はもっと広くしてほしい。
・このような企画も大事なのですが、何よりも我々は研究に力を入れるべきであると考え直しました。その事がむしろFDに反映されるのではないでしょうか？
・他県からも来て頂いている先生方もいるので、自由参加の散策ツアー（散歩程度）を早朝などにどうでしょうか？
・寮のアメニティが全体的に古い。
・素晴らしい機会を、ありがとうございました。
・懇親会では、意識の高い多分野の先生方といろいろな話をできて、とてもよい経験になりました。

（2）第2チームの回答

① このセミナーにおいて、良かったと思う点

・分野の違う先生方の意見を伺うことが出来た。
・様々な先生方の考え方を知ることが出来た。
・よりよい講義をするための重要ポイントが明示されたいへん参考になりました。
・自分の気付いていない授業の欠点がよくわかった。活発な議論に刺激をうけた。
・講義の改善点のヒントを色々と得られたこと。他参加者と同じ課題について話しあうことができ現状を把握できた。
・問題点と解決策のディスカッション。同じ学科の先生を同室にしていただけて交流ができた。
・講師の先生方の具体的な講義工夫が知られた点。参加者間の教育に関する意識の共有、ディスカッション。
・内容がとても充実していたので（講師の方がすばらしく）すごく参加してよかったと思います。
・Friendly な研修雰囲気（環境）、講師の説明の仕方。
・他学部の先生と意見を交換できたこと。様々な視点で「教育」について見ることができた。
・既知のことも含めて、授業の方法について知識を整理して考える時間をもてたこと。
・他大学、他の専門の方々と交流し刺激を受けたこと。
・悩みを持った各大学の教員がそれぞれ悩みを出して、似た経験を持つ他の教員と話し合うことができた。
・主体的、インタラクティブな授業について具体例がいくつも知ることができたこと。大島さんが言うように“正解”がないので学べる例をいくつも見せてもらうことは大変有効です。
・他大、他分野の方と情報交換、交流のできる点。
・色々な分野をもつ先生方とたくさん話ができたこと。
・講師の先生のお話がとてもわかりやすくて、よかった。とても参考になりました。また、ディスカッションも、色々な意見が出て、有意義でした。
・他の先生たちの意見交換ができてよかったと思う。講師が提示してくださったケーススタディで自分のやり方と授業の内容を確認してよかった。
・大島先生のお話がとても良かった。
・自分の授業について、集中的に考える機会、時間をもつことができた。
・参加者どうしの相互交流ができた。
・講師のお話しやグループでの議論の中で、授業改善に活かせそうなヒントが得られた。
・山形大学の新任の先生方も多く、全国から研修に来た先生方の意欲的な参加態度や明るい雰囲気。
・授業改善の為のヒントを頂けたと思います。また、改善について自ら考える契機になったと思います。
・講義の内容に基づき、参加者が大いに主体的に参加したこと。宿泊型なので、がっつり話す時間があったこと。
・運営スタッフの方々が良く動いてくださったので、トラブルなくプログラムが進んだこと。

・他大学の幅広い分野の先生方と意見交換ができたこと。FD について、各大学が様々なとりくみをしていることを実感できたこと。講師の話しや話しあいの中から、たくさんの可能性を見出せたこと。
・他大学、他分野の方の現状、考え方、なやみなどを聞くことができ、自分の意見にもコメントしてもらえた点では大変良かった。
・実践的な授業手法について具体的な知恵技法について参考になる点が多いにあった。
・他大学の人との交流、情報交換。
・様々な学生に対応した視野を知ることができた。
・改めて授業に対して(自分の)振り返る良い機会になった。話しやすい雰囲気作りがされているので、気構えずに話せた。
・直近の課題にミートしたセミナーであった点。
・講義内容への意見を含めたディスカッションができた点。
・「失敗はするもの」という点は、もっと強調されて良いと感じました。
・他大学、他分野の先生方と幅広く交流が持て、異なる視点から授業方法について考える機会を持てた。
・日頃の自分の授業を振りかえることができた。
・グループ活動やディスカッションを行うことで多様な意見を交わすことができた点。
・様々な経験をお持ちの先生方と交流を持つことが出来た。
・悩んでいること、問題と感じる点はどの大学の先生にも共通しており、解決するヒントを頂けた気がした。
・ワークやディスカッションを通して教育への意識を高めることができた。
・周囲の参加者の方から、たくさんのヒントをいただけたこと。
・問題提示からのディスカッションを通じ、さまざまな先生方との意見交換が参考になった。

② このセミナーにおいて、良くなかったと思う点(改善すべき点)

・分野別と分野子雲合の二種類が用意されていると、より授業に生かしやすい。
・意見交換の時間が多くあるとよい。
・講義主体の内容でありましたが、もっと参加型(workshop形式)に時間を増やしていただいたほうがよかったと思います。
・蔵王山寮の施設がもう少しよいとよりよい。寝る場所は狭すぎる。
・教育方法に関する理論、教育効果の客観指標に関するデータ紹介など、もう一度ふみ込んだ内容が欲しい。
・夜の交流会の中締めを、1時間ぐらいで一旦やってもらえると、休みたい人が部屋にもどって休みやすかったと思います。
・せっかくなので、自然を楽しめる時間があればよかった。
・インタラクティブな授業については、事例の紹介よりも、参加者が日頃、試行していることを理論的に一般化して説明してもらえるとよかったと思います。
・ディスカッションの時間がタイトすぎるのでもっと余裕を持ってほしい。
・グループワーク時間(特に議論してまとめる)が短い点。
・文系寄りの話が支配的であった点。
・1日目講義の自己矛盾している(ように聞こえる)話。
・テーマと内容がもう少し一致したものだとよい。
・演習ではない「講義」式の授業のやり方に関してもっと詳しく知りたいので、経験者の成功例を紹介していただきたい。
・やはり、講師の先生のセレクトは非常に重要だと思う。セミナーの質(期待)にかかわるので大切。
・アイスブレイクとその後のプログラムとのつながりがわかりにくかった。
・第2チームなのでもう少し専門的な内容を期待していたが、割と一般論が多かったような気がします。(グループ学習の運営ノウハウなど)
・グループ討論の脚気はコピーして配布すると案内されていたが(P6)実施されなかった。
・インタラクティブな授業について、もう少し深く掘り下げてほしかった。
・理科系の専門分野を対象としたノウハウ、経験談など、いくつかのニーズに応じた内容があると良かったと思います。
・洋式トイレとい温泉があればより良い。
・1日目→2日目のグループ分けを完全にシャッフルした方がよい。2人ずつぐらい同じ班だったが、すべてばらせるとよいと思う。
・座る場所によって見えづらいところがある。
・プログラムⅡの発達障害は大変興味深かったが、内容・時間とももっと十分とって実施していただけたほうが良かった。
・他の国立大学法人の参加者がいない。
・連続 100 分超えのコマは長いか。
・スクリーンの高さがもう少し高く設定して欲しかった。(スクリーンの下の部分が前の参加者の頭で見えづらかった)
・山形駅からキャンパスまでの「行き方」がわかりにくかった。(表裏で地図の向きが違う・バス路線が1路線しか明記されていない etc)
・休み時間が足りなく感じた時があった。
・セミナーⅠ・Ⅱについて、されにディスカッションを深めたかったです。大変興味深いテーマでした。
・休憩時間がもう少し長いとよいと思います。セミナーの内容はとても良かったと思いました。ありがとうございました。
・インタラクティブな授業の実例をもう少し知りたかった。授業を録画したものなど見せていただけるとより理解が深まるかと思う。
・さまざまな分野が集まって、さまざまな形式の授業があるなかで、一律に双方向性の可能性をはかることは難しいと思う。ある程度の土台(前提)をつくったうえで議論を進め

た方が良いと思った。

③このセミナーに参加して、これからの自分の授業並びに教育活動をどのように展開していこうと考えていますか。

・interactive な授業を目指し、feedback を大切に扱っていこうと考えました。
・よりよい講義（学生が積極的に参加してくれるような）を行うために必要なことが示されましたので、できるだけ実践してみようと思っております。
・大いに活用したい。個人的には第2日目がためになった。
・議論の進め方を変えるリアクションペーパーや板書、アイコンタクトの方法など自分なりに取り入れて行きたい。
・よいと思ったことを試行錯誤しながら、自分の技としてとりいれていく。
・学生の視点をより重視した授業。（学生との双方向のやりとり・授業の構造化、スピードの最適化）
・授業における双方向性、参加型に進めるにあたって、足りていないであろう部分、ためしてみたい部分の発見が多く、後期からさっそく取りくみながら自分に合った方法や進め方をさぐっていこうと思います。
・講師の紹介した教授法を自分の授業に生かして、「わかりやすい授業」を受講者に提供していきたいと思います。
・学生のテンションと授業の要点解説に充てる時間のバランスを考慮する。
・授業を受ける学生の実態にあわせること、自分が学生にどう印象を与えているかに自覚的に取り組みたいと思います。
・基本的に、自分が考え実践してきたことと似ている点が多く革新が深められた。細かい授業のやり方で取り入れたいプラクティスが複数あったので、さっそく試行してみたい。
・即戦力で導入できる技も多数得られたので、積極的に試してみたい。
・授業の方法論について、自分らしい授業を展開していきたいと思います。
・良い授業をするためのポイントが、以前はあまり意識していなかったが、どのような項目に焦点を絞ればよいのか、明確になったので、それらを意識して取り組んでいきたい思う。
・先生のポリシーを徹底すること。学生の間に話し合わせる時間を授業中で作ること。フィードバックをきちんとすること。
・自分流の授業の構築に取り組みたい。
・学生の状況把握（全体的に/毎日の講義で）をベースに授業計画と進行。
・90 分の時間のつかい方（全体像を先に示す。緊張/弛緩・集中/発散のリズム感をもつ）
・配布資料の工夫（書きすぎない、発展的資料に分ける）。
・授業改善に役立つ講師の先生方のレクチャーや各先生方の意見が、多面的・多様な広いものに渡り、大変役に立ちました。自分のキャラクターにあった改善の仕方で、より良い授業展開ができるようにしたいと考えています。
・常に議論を同僚としながら進めることが必要だと分かりました。
・FD は最終的には各大学が独自に構築していくものと考えているが、その中に共通する要素も多数あると思う。そういう意味で、今回の内容を学内に展開し、その中から本学に合う FD 手法を見出していくことを考えたい。
・私は教育という立場になってまだ5年ですが、これまで授業に対して様々な工夫をしてきました。しかし最近、あとどんな工夫があるのかということで考えていたところだったので、この研修は非常に良かったです。
・具体的改善事例、特に教育技法と、まず自身の授業で実践確認してから、大学の FD 活動へと発展させてゆきたい。
・今までは分量重視のところがあったが、少し内容を整理し、分量を減らして学生参加型の授業もとり入れていきたいと感じた。
・グループで協議した授業を良くするためのポイントを生かす。
・学生に伝えていく内容について、学生側に立ち、理解しやすい具体例を、内容と関連付けて伝えていきたい。
・初回授業の基本情報はすぐに活かそうと思った。
・発達障害のセッションは知らなければいけない事柄が多く、役に立った。
・話すスピードなどは、自分の話す様子をビデオに撮って、今回のポイントを当てはめたいと感じた。
・後期から、教えていただいたインタラクティブに展開できる小さなポイントなどを取り入れていこうと思います。
・授業の改善に活かしていきたいと思います。
・今後授業を受け持つ際に「授業の構造化」を導入していきたい。
・授業中、学生にインタラクティブな学びをさせる機会を作ってこなかったように思う。より主体的な学びを形成させるために、アクティブなワークをとりいれてゆきたい。
・もっと授業の構築化をしていこうと思う。（時間配分の視覚化）
・ルールづくり、ポリシーをしっかりつくりたいと思いました。

③　自由に感想を書いてください。

・様々な先生と意見交換できる貴重な機会であった。
・このような研修を機に各大学の交流が深まり、授業力向上が目指せるとよいと思いました。
・これまで学生側に立った講義をしていなかったことについて大いに反省することができた。テクニック以外の意識の面でも刺激をうけることができて、大変有意義だった。研究室の他の教員にも受けることをすすめたい。
・企画ありがとうございます。
・とても充実の研修で来てよかったです。関係者のみなさまありがとうございました。
・研修会の内容も運営の仕方もとても良かったです。事項の FD 活動に応用していきたいと思います。
・裏方の方々も含め、運営お疲れ様でした。

・DRの先生方、事務の皆様、お世話様方、ありがとうございました。
・こらから授業を行っていく上で、とても参考になりました。どうもありがとうございました！
・ちょっと外で作業できそうな活動があればうれしい。（せっかく蔵王にきましたので、自然にふれあう機会があればと思う）
・運営おつかれ様でした。友好的な雰囲気に好感が持てました。
・運営が大変かと思いますが、有意義な研修会でしたので、今後も他大学に呼びかけをして永く続けていただけたら幸いです。
・3（4）設問の意味が分かりにくいです。
4（5）…学生主体型の授業はあったのでしょうか？
・大変勉強になりました。
・時間外の交流で、学会では得られない学際的な交流が持たれたのが大変良かった。
・FD インタラクティブなどなど、もっとイメージしやすい言葉にならないのでしょうか。学生に聞いてもピンとこないような言葉が多すぎると感じます。
・初日と二日目の班が同じでも連帯感が出て良かったかと思う。
・他分野の先生方と話す機会を得て、自分の分野を客観的に捉える視点が持てました。ありがとうございました。
・自主的な参画が感じられ、広報や機関からのさそい方など工夫が必要かもしれません。
・講師の先生方の前向きさ、熱意、気迫がとてもよいエネルギーとなりました。
・セミナーで学んだことを、活かしていきたいと思います。ありがとうございました。
・2日間楽しい時間でした。授業などまだ教員経験がないので、最初研修についていけるのか不安だったが、先生の講義を活かしてスキルを身につけていきたいと思います。ありがとうございました。
・3－（4）がわかりにくい設問だったです。事務のスタッフの方々のやさしさに感動しました。山形大の企画していただいた先生、ありがとうございました。
・3（3）（4）のアンケートの質問の意味がわかりにくい。